

要するにセメントは貯藏するならば樽詰は其の悪影響は少ないが袋入のものは風化を起し易いから甚だ危険であることがわかる。

近時我邦セメント會社で大分紙袋を使用し出したが之は幾枚も紙を合せて作った上等の紙袋であるから布袋よりは遙に氣密性を有して居ると思ふ、唯其の取扱が丁寧を要するのこ再用の出来ない事が缺點であるが風化に對しては結果はよくないを考へらる。

### 第七節 結 論

上記縷々述ぶる處により混凝土の調合には如何に水量の重要であるか云ふこの了解を得られたことと思ふ、故に苟も混凝土施工に従事する人々は常に此點に留意して水さいふことを念頭に置くは甚だ肝要な事である、而して混凝土に使用する砂、砂利は實際に於ては千差萬別のものであるが故に其の配合設計に何れの學説を適用するにしても單に之の

みに依頼する事なく眞に一定強度の良混凝土を得んには施工に注意するのは勿論であるが W/c 比を守るに同時に、現場では其の調合したものと試験を行ふことは亦甚だ大切である。即ち其の調合の硬軟は **Slump test** 等によりて測定し又不絶試験標本を製作して其の強度が果して所定の強度に達するや否やを驗するのである。而して實驗の結果配合其の他に種々の工夫を加ふべき参考たらしめる。強度の實驗は今の處では研究所等の外では出来ないが實際良混凝土を得んこせば大量を扱ふ事務所等では、出来れば強度試験機 1 臺位備へ付けて置きたいものである。費用にしても 10,000 圓位あらば差當り行ひたい、各種の道具も 100 噸試験機位は充分購入出来るのだから、少しセメントの使用量に於て經濟的なる配合を得るならば此の費用なきは問題でないと思ふ。

以 上

## 大震災記念日に好著を紹介するの感

### 鐵筋混凝土施工法

工學博士 吉田 徳次 郎著

○鐵筋混凝土を最も眞剣に根氣よく研究してゐられる九大の吉田博士が透徹した施工法の著述である。大學の教授が施工法など書くのは適當でないと思はれる事もあつたが、吉田博士の此の施工法は卓上の研究丈ではない、大分現場を理解されてゐる様である。此の様な著述ならば我々も大に普及したいと思ふ。例へば混凝土のウオーカピリチーと云ふ事に就ては從來に見ない親切な手引が書いてある全編を十二章 857 項目に分けて口語體にハツリキ説述された處、挿圖 88 個總て實地工事最良の參考記事である。印刷の鮮明、校正の正確總て申分ない、菊判 404 頁落付いた布表装である、丸善株式會社發行（本書普及の爲め工事畫報社は特に定價及書留送料共にて金四圓二十錢で取次ぎます。）

○吉田博士は御自分で考案されたウオーカピリチー測定器の落下試験装置を以前から發表されてゐるが、實地工事には未だ廣く行はれてゐない様である、斯る精巧なる装置を現場の人が使つてくれるまでには先づ書物に十分な理解を持たねばならぬ、然し我々は先づ現場の人を攻める前に最も簡単な方法でも良いから混凝土の施工を試験的に扱つてもらい度いと思ふ、何うも現場の人は單純な事しか實行しない、書物か何にかの刺戟を得た時は試験的に實行しようと思ふが、直に忘れる面倒な事は出来ないと思ふ、それでスランプテストだけは漸く實行されつゝある。兎に角に本書の如きは現場の餘暇に常に愛讀して貰い度いものである。